



令和 2 年 1 月 6 日
仙台管区气象台

東北日本海側及び東北南部の月降雪量は
12 月としては最も少なくなりました

東北日本海側及び東北南部の月降雪量は、12 月としては
1961 年以降の少ない方からの 1 位を更新しました。

冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響も小さかったことから、東北日本海側にある 7 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値を平均した 12 月の月降雪量は平年比 26%、東北南部にある 8 地点を平均した月降雪量は平年比 9% となり、ともに 12 月として 1961 年の統計開始以降の少ない方からの 1 位を更新しました（これまでの 1 位は東北日本海側で 2015 年の 33%、東北南部で 2015 年の 14%）。

詳しくは、下記 URL より、「2019 年 12 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区气象台ホームページ 「2019 年 12 月の東北地方の天候」

https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200106_12TukiGaikyou.pdf

問合せ先：仙台管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：池田・金濱

電話：022-297-8177

FAX：022-291-8110

2019年12月の東北地方の天候

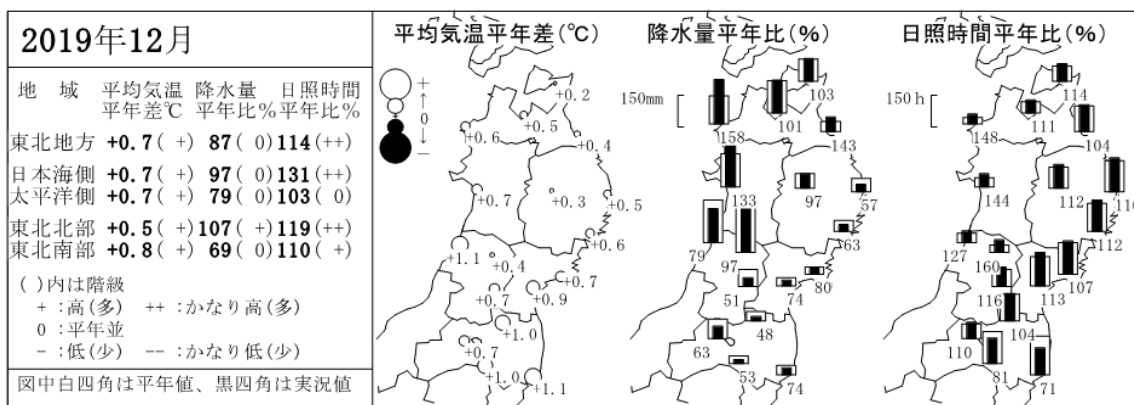
○冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響も小さかったことから、東北日本海側及び東北南部の月降雪量は、12月として1961年以降最も少なかった。

概況

この期間、低気圧や前線、高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、冬型の気圧配置は長続きしなかった。上旬は冬型の気圧配置となる日があり寒気が流れ込んだため、東北日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多かった。上旬の中頃は強い寒気が流れ込んだ時期があったが、中旬を中心に暖かい空気が流れ込んだため、東北地方の月平均気温は高かった。冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響も小さかったことから、東北地方の月間日照時間はかなり多く、月降雪量はかなり少なかった。月降雪量は東北日本海側で平年比26%、東北南部で平年比9%となり、ともに12月として1961年の地域平均の統計開始以降少ない方からの1位を記録した（これまでの1位は東北日本海側で2015年の33%、東北南部で2015年の14%）。

2日と3日は低気圧が通過し、その後6日にかけて冬型の気圧配置が強まったため、東北日本海側で大雨となった所があり、福島県を除く各県では山沿いを中心に大雪となった所があった。12日と14日は、低気圧や前線の影響により、東北日本海側を中心に大雨となった所があった。27日は低気圧が通過したため東北北部を中心に大雨となり、青森県と岩手県では平地でも大雪となった所があった。31日は前線が通過したため、東北日本海側を中心に大雨となった。

月平均気温は高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。月降雪量はかなり少ない。



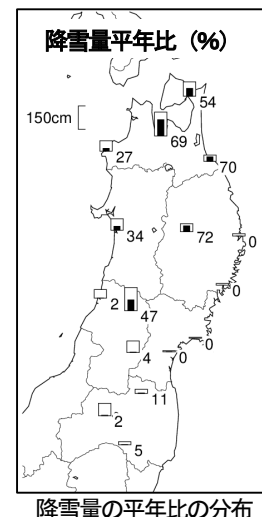
平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

2019年12月の月降雪量地域平均平年比と階級

	地域平均平年比	階級
東北地方	25%	かなり少ない
東北日本海側	26%	かなり少ない
東北太平洋側	24%	かなり少ない
東北北部	41%	かなり少ない
東北南部	9%	かなり少ない

降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の凡例について

降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール(高さ)は、降水量(mm)、日照時間(h)、降雪量(cm)を表します。各地点の数字は平年比(%)です。

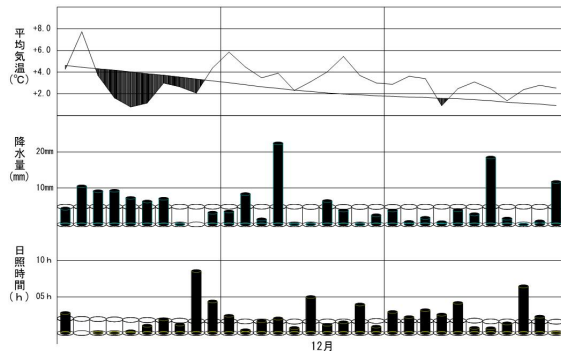


注意事項

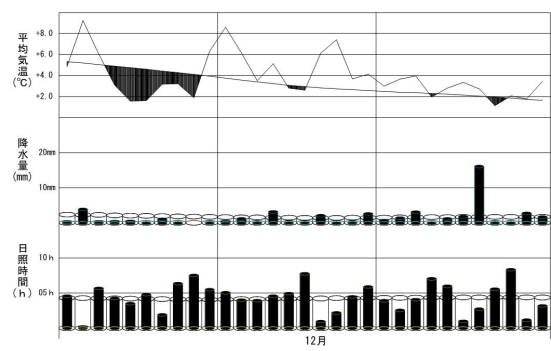
気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています。このうち、降雪量については、小名浜を除く16地点より求めています。(速報値)

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東南北部は宮城県・山形県・福島県としています。

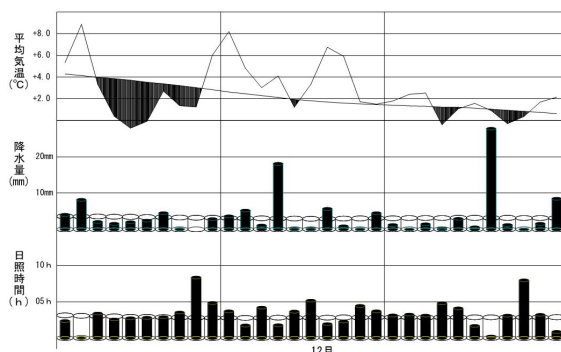
気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い(多い)」「かなり低い(少ない)」と表現します。



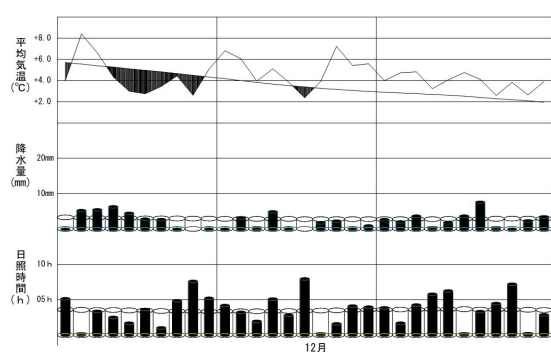
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東南北部

平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北日本海側、右上は東北太平洋側、左下は東北北部、右下は東南北部の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

2019年12月の極値・順位の更新 (順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。)

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	新庄	62.2	160	67.0 (1997)	1957	38.8

月平均気温高い方から、月平均気温低い方から、月降水量少ない方から、月降水量多い方から、月間日照時間少ない方から、降雪の深さ月合計値多い方から、月最深積雪大きい方からの順位更新の3位以内はありません。

(注) ・値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。
平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

2019年12月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級						
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)					
青森	2.0	(+0.5)	+	153.0	(101)	○	19	58.6	(111)	+	105	(153)	-	38	(51)	○
深浦	3.1	(+0.6)	+	210.0	(158)	+*	17	46.7	(148)	+*	18	(67)	-*	11	(20)	○
むつ	1.5	(+0.2)	○	107.0	(103)	○	16	81.1	(114)	+	49	(91)	-	14	(24)	-
八戸	2.2	(+0.4)	+	70.0	(143)	+	7	129.0	(104)	○	28	(40)	○	12	(9)	+
秋田	3.6	(+0.7)	+	213.5	(133)	+	20	65.0	(144)	+*	25	(74)	-*	10	(17)	-
盛岡	1.3	(+0.3)	○	69.0	(97)	○	12	113.3	(112)	+	38	(53)	○	17	(19)	○
大船渡	4.2	(+0.6)	○	32.0	(63)	○	7	148.3	(112)	+*	-	(11)	-*	-	(4)	-*
宮古	3.6	(+0.5)	+	37.0	(57)	○	3	161.7	(110)	+	-	(16)	-*	-	(8)	-*
仙台	5.4	(+0.9)	+	27.0	(74)	○	5	156.1	(113)	+	-	(9)	-*	-	(6)	-*
石巻	4.2	(+0.7)	+	27.0	(80)	○	6	159.2	(107)	+	-	(6)	-*	-	(5)	-*
山形	3.3	(+0.7)	+	42.5	(51)	-	13	93.5	(116)	+	3	(77)	-*	2	(23)	-*
新庄	2.0	(+0.4)	○	217.0	(97)	○	19	62.2	(160)	+*	72	(154)	-*	56	(48)	○
酒田	5.6	(+1.1)	+	161.5	(79)	-	18	55.9	(127)	+	1	(56)	-*	1	(14)	-*
福島	5.4	(+1.0)	+*	20.0	(48)	-	7	129.6	(104)	○	3	(28)	-*	2	(11)	-
若松	2.9	(+0.7)	○	59.0	(63)	-	16	77.9	(110)	○	2	(83)	-*	1	(30)	-*
白河	4.0	(+1.0)	+	19.0	(53)	-	5	123.1	(81)	-*	1	(21)	-*	1	(8)	-*
小名浜	7.5	(+1.1)	+	33.0	(74)	○	6	129.5	(71)	-*						

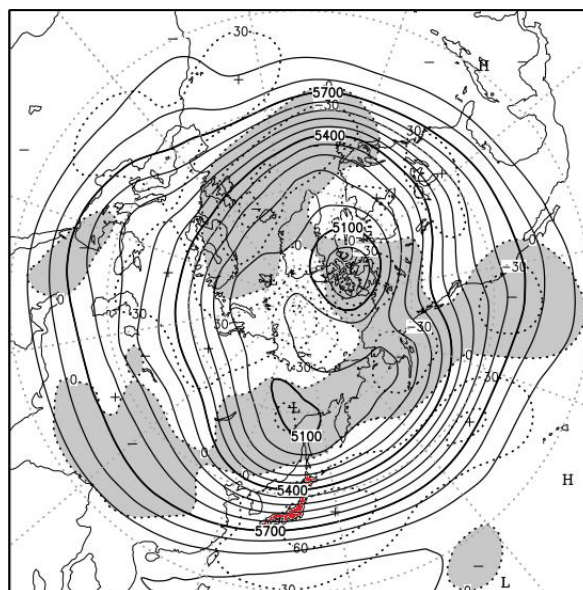
- (注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。
 2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。
 + : 高い (多い) ○ : 平年並 - : 低い (少ない)
 各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる (各階級が10個ずつになる) ように決めた。
 また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には
 かなり高い (多い) かなり低い (少ない)
 と表現できる。
 また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。
 3. 値の横に「や」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ (日別値) に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値 (準正常値) は通常のものと同様に扱うことができるが、] 付きの値 (資料不足値) については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数 (統計に用いた、品質が十分な日別値の数) を参考にして使用されたい。
 なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

循環場の特徴

500hPa 高度は、日本付近から日本の東海上にかけて平年より高く、大陸では平年より低くなった。偏西風は日本付近から日本の東海上で北へ蛇行し、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかった。一方、オホーツク海の北を中心に平年より高度が低く、極渦が一時的に南下し、北海道を中心に寒気の影響を受ける時期があった。

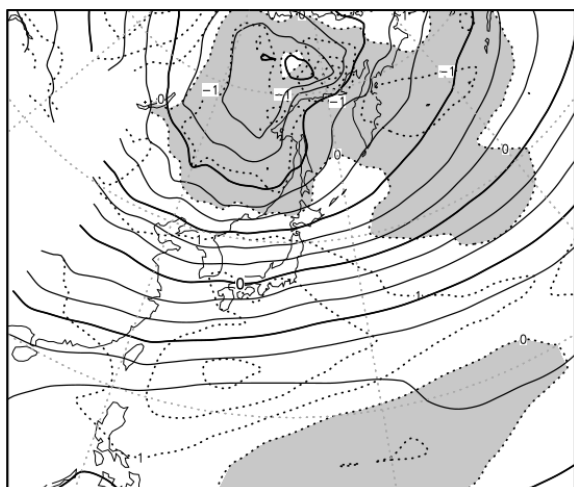
850hPa 気温は、日本の北で平年より低い一方、本州以南は平年より高く、北からの寒気の南下が弱かった。

海面気圧は、日本の東海上を中心に平年より高く、モンゴルから華南にかけては平年より低かった。日本付近は冬型の気圧配置が弱く、東・西日本太平洋側では低気圧の影響を受けやすかった。ただし、ベーリング海付近では低気圧が強くなり、北日本は冬型の気圧配置が強まった時期があった。



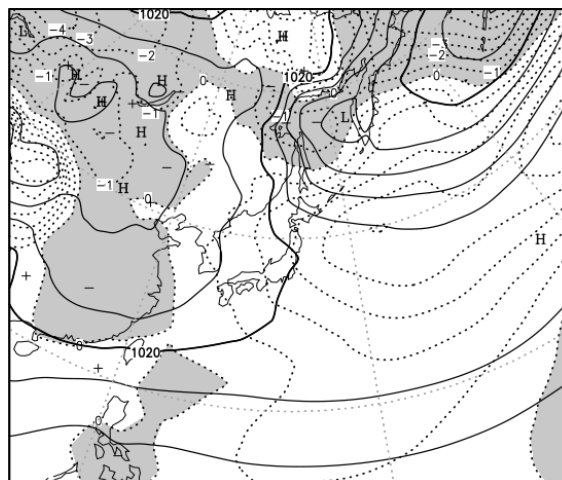
2019年12月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2019年12月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3°C。点線は偏差(°C)、間隔1°C。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2019年12月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。